

和名は「茶色の羽をもつセセリチョウ」で、その発生地では一般に個体数も多いごく普通のチョウであり、日本のどこにでもいるかと思ってしまうが、本州関東以南に分布し、それより北の地域にはいない。セセリチョウの仲間は例外なく花蜜が好きで、夏の終わりから秋にかけて個体



数を増す本種も、コスモスやマーガレットなど、花芯が黄色い花を好むように思う。左写真のように高砂市西畑の花畑ではイチモンジセセリと本種とが競うように花から花へと飛び回る光景を目にする。幼虫はイネ科植物を食べて育つとされ、身近ではチガヤ、ススキ、メヒシバなどで発生していると思われるが、身近野外では実際に確認できていない。加古川志方町ではケネザサに筒状の巣をつくって潜む幼虫を観察したことがある。右下の写真記録は、まさにケネザサが茂る山すその小道沿いで

撮影したものだが、ちょっと驚かせても遠くへとは逃げることなく、すぐに近くの葉上へと移動するていどで、愛くるしい大きな目でこちらが次にどういう行動に出るのかを探っているように見えてしまう。実際、こちらが少し動くと再び飛んで、また近くの葉上あるいは路面上で同じポーズをとる。オミナエシやリンドウが咲く秋の草原すその小道で、まるでハンミョウが道案内するかのようにはとまる本種と戯れるのは結構楽しい。

